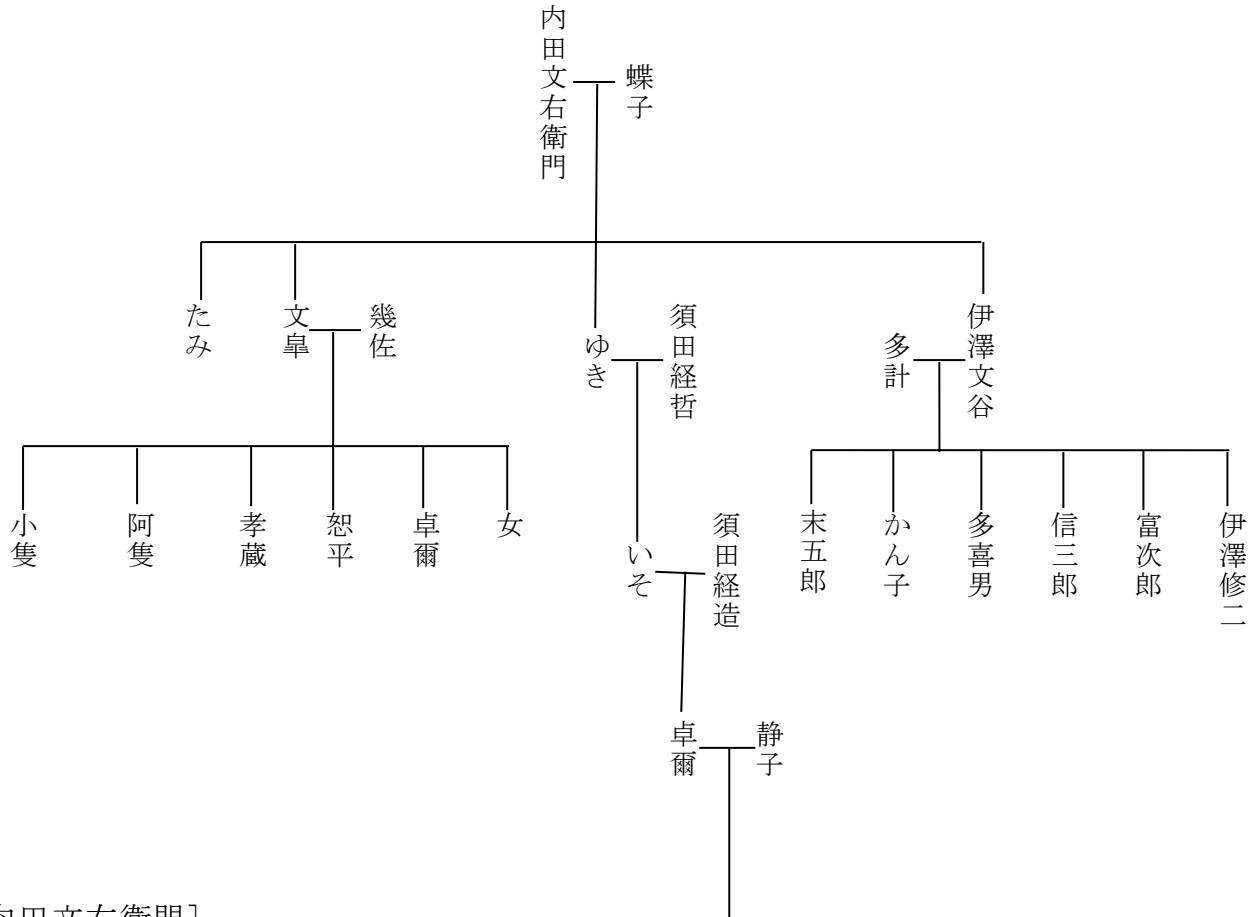


内田家々系略図



[内田文右衛門]

敬忠・準一

高遠藩士、文政四年御先手組入り、御坊主を経て文政十年御用人中書役、嘉永二年御供番格、二十俵二人扶持、進徳館筆学助教。明治以後小学校で教鞭をとる。

[内田文臯]

敬義・徳一郎・淡水

文右衛門長男、御坊主勤めを経て御手留役（書役の助手）

明治以後は藩庁の駆遣係り、史生等を勤め、その後郡下小学校で教鞭をとる。

画家でもある。

[須田経哲・卓爾]

経哲・泰嶺、文右衛門二女ゆきと結婚、当時先端の外科医。

卓爾・文臯長男、須田家を継ぐ、ドイツ留学後眼科医。